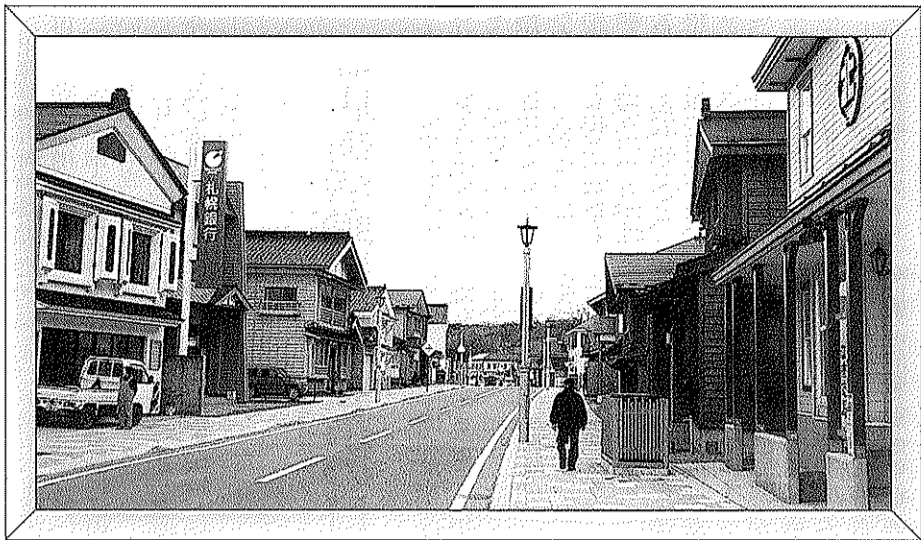


街の活力は 自立と創造から

あのまちこの街



江差町歴まち商店街協同組合 (江差町)

マスコットキャラクター
「夢作」と「お路ちゃん」

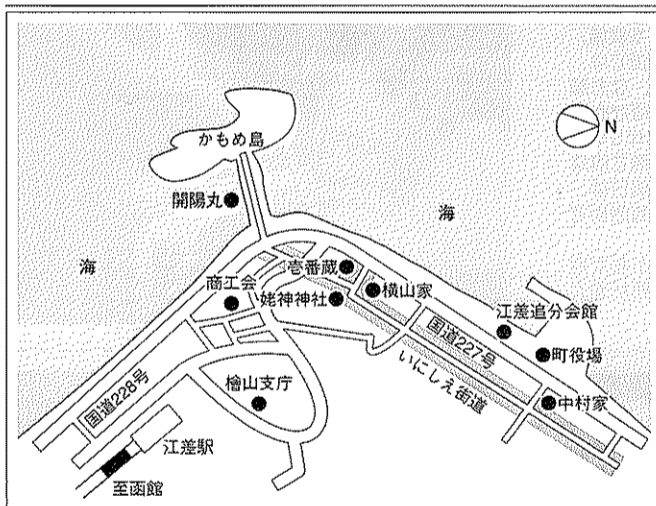


江差町は、渡島半島の日本海側に位置し、檜山支庁の所在地である。札幌からはJRとバスで最短四時間半ほど。町は周辺市町村との合併は行わず、単独で生きる道を選んだ。江差は民謡「江差追分」のあるまちであり、江差追分全国大会が毎年開催される。

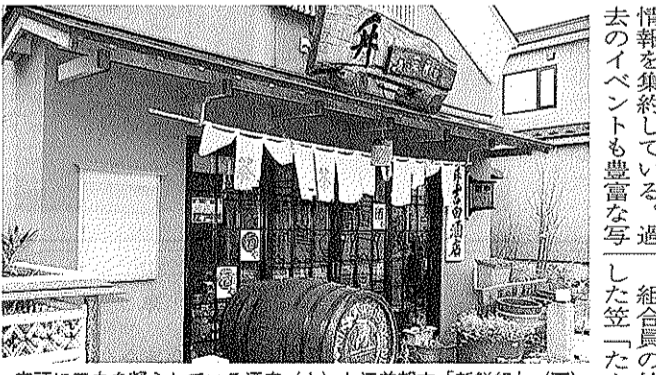
江戸期から明治にかけての北前船交易とニシン漁による繁栄は特有の文化を形成し、数々の郷土芸能や建造物が現存する。

また江差沖に沈んだ徳川幕府の軍艦「開陽丸」がそっくり再現されている。

このような観光資源に恵まれる一方、人口はピーク時の昭和四十年の約一万五千人から、



現在約一万人に減少。高齢化も進む。商店主たちは、まちの空洞化を危惧する中、平成元年に北海道の戦略プロジェクト「歴史を生かすまちづくり」のモデル地区に指定されたことから、これに逆行して、賑わいを取り戻すための試みを次々と仕掛けてきた。



店頭で工夫を凝らしている酒店(上)と江差朝市「新鮮組」(下)

昨年五月から七月の土日、計二十六日間、「江差朝市「新鮮組」」を開き、「地産地消」を目的に、地元の商店や生産者が地場産品を販売。観光シーズンでもあることから、チラシを宿泊施設に配布、また郵便局とタイアップし買った物をその場で発送できる。予想以上の来客になったこともあり、期間中にも参加店が増加した。「朝市」はオープニングの目玉にもなっている。

組合ホームページは、組合事業や個店の紹介など、多くの写真とともに、多くの写真とともに過去のイベントも豊富に紹介した「たんころりん」(連絡先)江差町歴まち商店街協同組合

歴史を生かすまちづくり

戦略プロジェクトで街路一新 ソフト事業も次々と仕掛ける

「江差の五月は江戸にもない」と言われる程の繁栄を誇った江差町。北海道において和人が最も早くから定住したとも言われ、江戸時代初めからは北前船交易を中心とした松前藩の経済の中心地となり、ニシン漁最盛期には多くの廻船問屋や土蔵などが建ち並んだ。平成元年、江差町においても特に歴史的建築物が集積している海岸沿いの下町地区(通称いにしえ街道)が、北海道の戦略プロジェクトの一つ「歴史を生かすまちづくり」の「歴史を生かす街並み整備モデル地区」に指定された。地元においても歴史的

遺産を活用して何かやろうという機運が高まっていたところ、戦略プロジェクトの指定を受け、一気に動きが具体化した。町では、まちづくりに関する議論を重ね、「ふたもと」の街並み景観形成地区条例を制定。またモデル地区の整備基本方針を策定し、その中では歴史性を生かした産業の振興も目指すものとした。街並みを「まもり」「そだて」「つくる」という理念のもと景観基準も設定した。

「いにしえ街道」約一キロの区間は、江差町のシンボルとも言える姥神社、国道指定文化財である旧家などがあり、

まもり、そだて、つくる町並み
並行して数々の新事業も

この間、道や町がハード整備を行うのに並行して、地域の商店主も戦略的に動いていた。商店主たちは、江差町の人口減少や、函館郊外の大型店等への購買客の流出、観光客減少の中で危機感を強めていた。戦略プロジェクトの指定は、他にない商店街を実現し、伝統と繁栄を次代に引き継ぐ百年に一度の機会であると受け止めた。

平成四年には任意会を八年には「江差町歴まち商店街協同組合」を結成した。

イベント「いにしえ夢街道」を春・秋の二回開催。春には町民による時代劇「江差幕末物語」を上演、秋には「職と食」手作り職人の技を実施する。平成八年以降は補助金なしで行ってきた。商店主たちが扮するちんどん屋「夢作宣伝社」は十一年に結成され、組合員の店舗改装時のPRなどに練り歩く。

ペン画家柄澤照文氏作成の「夢作」「お路ちゃん」をマスコットキャラクタ

クターに設定。買い物袋や封筒にも使用する。その後、商店街で用いる図画を柄澤氏の作風に統一し、十一年以降「店主似顔絵キャラクター」を作成、個店の看板・のれん・チラシ・名刺等に活用している。

米穀店から町に寄贈された土蔵を、十四年、内装工事の上、拠点ホール「巻番蔵」としてオープンし、組合が運営している。季節により無料休憩所として開放、軽食や物産の販売を行うほか、コンサート・講演などのイベントに使用できる。

各組合員は店頭や内装にも創意工夫を凝らし、歴史的景観の演出に貢献している。

まちづくり全体についても、商店街および各商店主が町の意思決定段階から積極的に動いている。室谷理事長も江差町総合計画策定審議会に副会長として参加した。

また、歴まち事業の推進にあたり、組合および商店主が個店の説得にあたり、

新たなソフト事業も

真で紹介されているので参考になる。また、掲示板やブログを設け、まめにまちの話題を書き込むことで、定期的のぞいてみたいホームページになっている。

インターネット通販「夢作屋商店」では歴まちオリジナル商品を販売する。オリジナル商品とは、いずれも柄澤氏デザインによる「江差民話日本手ぬぐい」「二十文マスコット」など。毎年新作が出るので話題性もある。今年には「追いかけて街」のイベントも仕掛ける。今年には「追いかけて街」のイベントも仕掛ける。

組合では、ハード整備完了後も、それをいかに街の賑わいに結びつけるか試行錯誤を続けている。「追いかけて街」のイベントも仕掛ける。

「葵の枯れゆく散り際に開陽丸」と詠われた徳川幕府最強の軍艦「開陽丸」オランダで建造された僅か一年七月後の明治元年十一月十五日、江差沖で座礁沈没。それから百年を経過した昭和五十年、座礁沈没から百二十四年、平成二年四月に「かもめ丸」手前に実物大が復元された。

開陽丸は、日本の近代化に著しく貢献し、オランダ留学を果たした榎本武揚はじめ、十四名のありし日の姿など、貴重な資料、遺品の数々が船内に保管展示されている。

店主似顔絵入り看板(右)と、干支マスコット(左)

店舗の右側は生活民具展示館になっている

屋号入り照明器具を入れた「たんころりん」

組合
〇三九五一一〇五三
一(江差商工会内)
ホームページ
http://homepage1.nifty.com/mesashi/index.html